



## 目次

表紙写真Ⅱカラコルムの「白きたおやかな峰」 ディラン峰7257m 撮影・岡田健志	編集後記	三月会通信	会員近況報告	山岳部員の活動	国立キャンパス部室の外壁塗装	高谷山周辺の登山道修復作業	平成26年度新年会・臨時総会	会務報告	FN短大の記録	会津の山	初鹿野の山々 ——徳並山・古部山・三角コンバ	カラコルムのトレッキングと 天山南路バスの旅	ツール・デュ・ モンブラン・トレッキング	笹子雁ヶ腹摺山
	32	26	24	23	22	21	20	20	18	16	15	6	4	2
									中村 雅明	齋藤 誠	藤原 朋信	佐藤 久尚	小野 肇	仲田 修

発行日 2015年4月10日

発行者 針葉樹会  
(会長 竹中彰)

印刷所 ヤマノ印刷㈱

## 針葉樹会報 第132号

編集人 小島 和人  
〒241-0817  
横浜市旭区今宿 2-60-1  
会報幹事/小島和人、井草長雄  
川名真理

## 笹子雁ヶ腹摺山

仲田 修 (昭36年卒)

2014年12月7日 (日曜日)

参加者…佐藤恭(31卒)、仲田修(36)、竹中彰(39)、小島和人(40)、本間浩(40)、佐藤久尚(41)、岡田健志(42)、宮武幸久(45)、\*松尾信孝(48)、兵藤元史(52)、松田重明(53)、\*糟谷知紀(平25)、\*糟谷夫人の13名  
山岳部員…太田貴之(3年生)、岡田堯之(2年生)、内海拓人(1年生)の4名(\*印は打ち上げ会には出席されなかった方々)

笹子雁ヶ腹摺山、雁ヶ腹摺山、牛奥ノ雁ヶ腹摺山の三つを合わせて山梨県では三雁ヶ腹摺山と呼ばれている。今回はその一つを登った。今回のコースは笹子駅から頂上(1357m)に登り笹子峠を経て再び笹子駅に戻る周回コースである。コースタイムは昭文社によると登り3時間、下り3時間である。

9時20分着の中央線で笹子駅に定刻に到着。

着。プラットフォームに降り立った20人ほどの客のうち17人は我々一行だった。9時半過ぎに歩き始める。これ以上無いほどの快晴の中を国道20号線(甲州街道)に沿って甲府方面に向かって歩く。

道の両側にそびえたつ山々の稜線が青空に映えていてそのまま切り取って額縁に入れて飾りたくなるほど美しい。北風のせいか耳が少し痛い。国道を歩くこと30分ぐらいで登山口に到着。そこから見上げると山の端に馬鹿でっかい反射板が見える。「あそこが今日登る頂上のあたりだ!」と誰かが言う。

登りにそなえて身支度を調える。いよいよ山道に入る。快調なピッチで登り始める。筆者にとっては少しペースが速すぎる感じ。案の定、呼吸が追いつかなくなる。心臓が口から飛び出しそうなくらい息が苦しい。ついに鉄塔のところで倒れ込む。先に行ってくれよう皆さんに頼みこむ。佐藤さんにアテンドしてもらって最後部を歩く。「登りの時もストックを使った方が楽だよ!」と教わる。

最初の休憩地点で本隊に追いつく。ピッチを少し落として登るようトップの本間さんに指示が出る。今度は本間さんのすぐ後を歩く。相変わらずの急登が続く。スピードが落ちたので今度は快適な登りだ。丁度12時に頂上に到着。

360度のパノラマが眼前に広がる。息をのむような素晴らしい光景だ。すぐ目の前には富士山。秀麗富岳十二景の一つに数えられている雄姿だ。甲府盆地の向こう側には雪をばっちりつけた八ヶ岳や南アルプスの山々がくっきりと見える。雪をいただいた秩父連峰もどっしりとそびえ立っている。佐藤先輩は早速双眼鏡を取り出して山の同定作業を始める。狭い頂上はすでに数組の先客が居て混雑している。大所帯の我々は空いている場所に散らばって昼食を摂る。

30分ほどで頂上を後にする。かなりの急坂だ。ところどころトラロープが張ってある。慎重に下る。隊列が伸びる。先頭と最後尾の間隔がかなり開く。甲斐大和駅との分岐で松尾さんが我々と分かれて甲斐大和駅に向かう。急坂の下りはさらに続く。

山道を下りきったところが旧笹子隧道だ。このトンネルは登録有形文化財に指定されている代物だ。しかし県道212号線(旧甲州街道)のトンネルとして現在も使われているという。つまりまだ現役なのだ。ここから山道でなくこの県道を歩くことになる。途中、県指定の天然記念物である「矢立の杉」に立ち寄る。しばらく下ると再び今朝登り始めた登山口に到着する。ここで大休止をとる。

このあとは3時半過ぎの電車に乗るべく国



12月7日、笹子雁ヶ腹摺山の山頂で。前列左端が筆者

道20号線をひたすら歩く。「もしかすると予定している一本前の電車に間に合うかもしれないぞ!」との声が起こる。早く飲みたい一心で小走りになるものが出てくる。結局二班に分かれて電車に乗るハメになる。

打ち上げ会場である八王子の居酒屋「坊の房」に先に着いた組は「練習!」と弁解がましく言いながら全員揃う前に早々と乾杯を始めてしまう。寒い冬とはいえ一日歩いた後の

ビールはやはり旨い。全員が揃ったところで本日の無事下山を祝して正式に乾杯する。

一橋山岳部の将来を背負って立つ3人の現役山岳部員を囲んで今年の部活動の成果や思い出話や反省点などを熱く語り合う。さらには来年の計画や希望についても話が弾む。いつ果てるともなく話は続くが飲み放題の二時間の時間制限がきたため残念ながらお開きとなる。山行幹事さん! ありがとうございました。

#### コースタイム

笹子駅 9:31 → 10:04 登山口 10:11 → 11:58 笹子雁ヶ腹摺山山頂 12:37 ↓ 甲斐大和駅との分岐 13:34 ↓ 笹子隧道 13:44 ↓ 14:12 矢立の杉 14:20 ↓ 登山口 14:54 ↓ 笹子駅 15:30

この機会に36年卒のヤロー会の近況について触れておきたい。一時は最大の陣容を誇っていたヤロー会も中嶋寛君、大賀二郎君、小林進二君、山本尚禎君、中川滋夫君の5人が他界され、現在では有賀、石、小林(正直)、仲田、永井、三股の6人と所帯が小さくなっってしまった。しかし人数が減ったとはいえ親睦会は積極的に行っている。つまり暮れにはクリスマス会と称して集まり、春には一緒に温泉旅行を楽しもうという形で集まってい

る。この年2回の親睦の集まりは過去十数年来一度も欠かすことなく続いている。その秘訣はなんだろうか?

この年2回の集まりには必ず女房連中に参加してもらっている。もちろんご主人を亡くされた中嶋、大賀、小林、山本諸氏の奥方にも参加していただいている。このように奥方と一緒に集まるという形式はヤロー会だけのユニークなやり方かもしれない。奥方連中はこのヤロー会の集まりを心から楽しみにしておられる様子だ。しかも女性が入ることで男性だけの集まりにくらべ話は数段弾み、かつ笑いが絶えない。これが長く続いている秘密ではないかと推察している。

いままで行った旅行先を列挙しておく。水上温泉と天神平、那須温泉と那須岳、草津温泉と白根山、箱根と金時山、富士見高原と入笠山、上高地と明神池、伊豆高原、会津・喜多方、淡路島・徳島などだ。今年の春は茨木県の五浦海岸を予定している。

## ツール・デュ・モンブラン・トレッキング

小野 肇 (昭40年卒)

ツール・デュ・モンブランはヨーロッパ最高峰のモンブランの周囲170kmをシヤモニー(標高1035m)から回るトレッキングコースです。そのうち70kmを歩く12日間の計画が地元の山岳ガイド社からあったので参加しました。

標高1000mから2700mまでを上り下りしてフランス、イタリア、スイスと3カ国をまわる雪山と氷河と素晴らしい山岳景観に魅了された旅でした。(モンブランの標高は4807mとなっているが4810・9mが正しいらしい)。

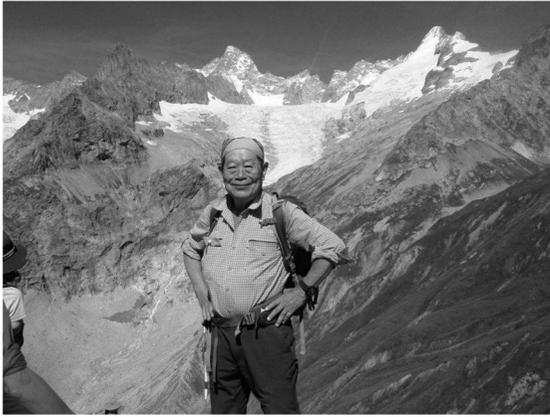
以下簡単にご紹介します。

**8月21日** 千歳空港19時30分で羽田空港へ。

**8月22日** 0時30分羽田発、ドバイへ。10時間45分。ドバイからジュネーブへ6時間50分。時差7時間。ジュネーブからバスでシヤモニーへ。夕方着。

**8月23日** 足慣らしのためまずロープウェイでエギーユ・デュ・ミディへ。一気に3842mまであがる。山頂駅でゆっくり歩かないとふらふら。高山病の症状出る。モンブランの雄姿がまぢかに見えて大感激。遠くグランドジョラスも見える。途中駅のプラン・ド・レギーユまでくだりここからモンタンベールまで3時間のハイキング。モンタンベールから登山電車に乗ってシヤモニーの宿へ。

**8月24日** バスでノートルダムデラゴルジュへ。標高1210mの教会で安全祈願



フェレの科尔2531m (イタリア、スイスの国境から)。  
後ろの山はグランドジョラス4208m

をして出発。途中、素晴らしい渓谷を左手に見て牧草地の広がるバルメの小屋で昼食。バルメの小屋が1706m、ボンノムの科尔まで600mほど登る。初日だけにつらい。ここから今日の宿泊地のボンノム小屋までが長かった。8時間の行動。

**8月25日** ボンノム小屋(標高2433m)は寒かった。朝はスープとパン。パンはぼそぼそして食欲が進まなかった。今日はイタリアに入る。200mほど登りフルの科尔へ。その後800mの下り。グラシエ村に着きチーズ工場見学と試食。こつてりした味。その後だから登りモッテの小屋で昼食。おいしいスープを注文してボンノム小屋で注文したお弁当を食べる。ここから720mのきつい登りでセイニユの科尔。イタリアとの国境線。くもり空で寒い。谷を下りエリザベッタ小屋へ。途中、沢山の羊と羊飼いを遠望する。教の多さに圧倒された。小屋は標高2258m。素晴らしい小屋。10時間の行動。

**8月26日** 夜半から雨。防寒具、雨具着用で出発。緩やかな下りで250mくだりコンパル湿原。右に曲がりシェイクの科尔へ行く道をあきらめまっすぐ広い道を歩きクルマイユールへ行くバスに乗り昼前にホテルに到着。部屋が空き次第、順次部屋に入

りシャワーを。濡れた衣類、雨具を乾燥室に。休養日となる。シャモニーから衣類到着。夕方雨も上がり街を散歩する。シャモニーよりこぢんまりした町。周囲は山、山。

**8月27日** 休養日で、バスでアオスタ見学。ローマ時代の遺跡に目を奪われる。天気よくイタリアらしい陽気。夕食は前日と同じレストラン。陽気なマスターが仕切っている。イタリアらしい明るいレストラン。気持ちしが和む。

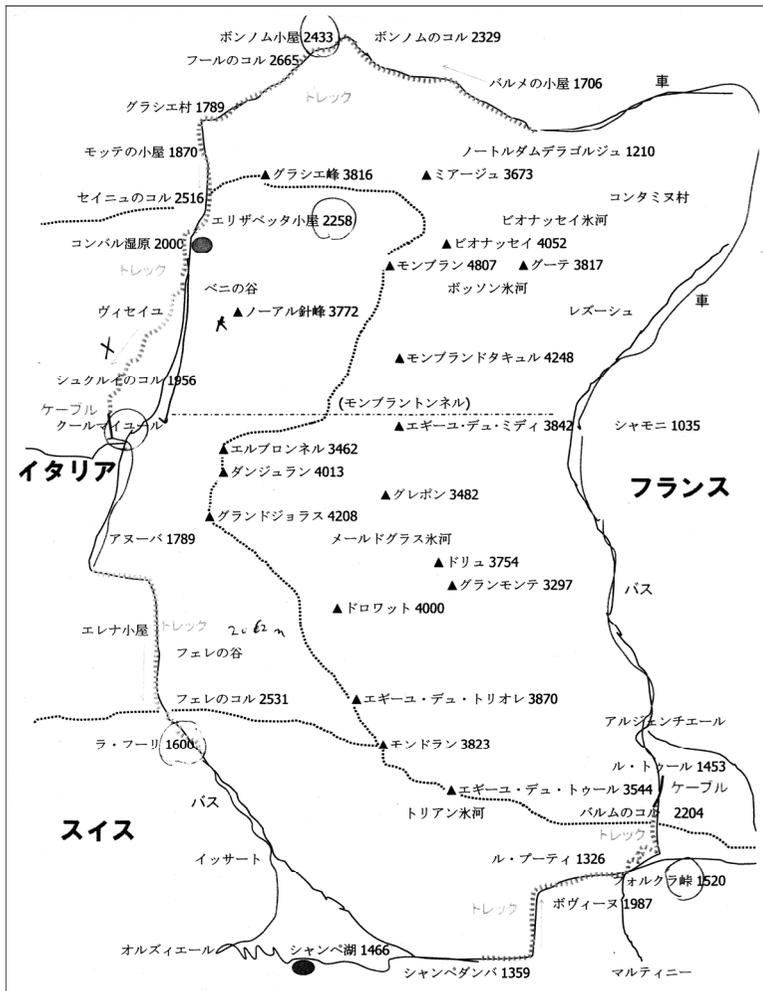
**8月28日** 路線バスにのりアヌーバーへ。標高1789mからトレッキング再開。740mの登り。途中エレナ小屋でランチ。大勢の人で混み合っていた。フェレの谷を900mほど下り今日の宿ラフリーへ。今日はロッジだった。山小屋より広々してレストランも完備。明日はバスで移動なので夕食前にビールを2杯飲む。夕食時にワインを飲み少し体が慣れたのか快調だった。チーズがおいしい。7時間の行動。

**8月29日** 路線バスでシャンペンダンバへ。標高1359m。600mの登りでポビースへ。その後460mほどくだりフォルクラ峠到着。フォルクラ小屋宿泊。ここもホテル並みのロッジ。6時間の行程。

**8月30日** いよいよ最後。200mほどくだり標高差870mの登り。フランス国境のバルムのコルへ。ここからはリフトで750mくだりルトウールへ。路線バスでシャモニーへ。最初に泊まったホテルへ。モンブランの雄姿を眼にとどめる。

**8月31日** 午前中、時間があるのでロープ

ウェイを乗り継いでプレバン2525mからモンブラン、シャモニー針峰群をカメラに収める。午後、専用車でジュネーブ空港へ。15時15分ドバイ空港へ。  
**9月1日** ドバイで乗り換え成田空港へ。羽田まで出て千歳空港へ。12日間の旅行も幕を閉じた。



## カラコルムのトレッキングと 天山南路バスの旅

佐藤 久尚（昭41年卒）

期間 2014年9月5日～10月3日

旅行者 佐藤久尚、岡田健志（昭42卒）、

中村雅明（昭43卒）

カラコルムのフンザからクンジエラブ峠を越えて中国に抜ける旅をしてみたいと思いつつも、パキスタンの治安懸念からここ2年程、その実施を見合わせていた。今年も依然として外務省の海外安全情報サイトを見ると、パキスタンの一部地域については、渡航延期の勧告が出ている。しかしながら、いろいろな情報蒐集してみると、パキスタンの中でもギルギットやフンザ地方は比較的安全で、懸念のあるカラコルムハイウェイの一部区間（北部ハザラとコーヒスタン地区）も、昨年のナンガパルバット山麓での事件以来、警備が強化されているので、まず大丈夫だろうとの感触を得た。そこで思い切って出かけることにした。

9月5日に成田からイスラマバードに飛び、9月7日、フライトが天候不良でキャンセルとなったため、急遽、車をチャーターし、カラコルムハイウェイを18時間（651km）のドライブでギルギットに入った（カラコルムハイウェイの一部区間では、マシンガンを持った警官が我々の車に同乗し警備してくれた）。ギルギットでトレッキングエージェントと打ち合わせした後、9月10日、ガイド、コックと共に、ジープ2台でカラコルムハイウェイを北上して、トレッキングの出发点となるナガールのホーパル村に入った。

### 1 ラシュファリ トレッキング

9月11日

ホーパル村（2,790m）のホテルをポーター8名とキッチンボーイ1名を加えた総勢14名で出発。まず氷河に削られた急な崖の道を50～60m下って、ホテルの直ぐ下を流れるケパル（別名プアルタール）氷河に下りる。同氷河はミアール（6,824m）、ケパル（6,361m）、ディラン（7,266m）の、主に三つのピークから流れ出した氷河が合流してきたもので、表面が土砂に覆われていなくて、比較的白くてきれいな氷河である。源頭中央にはケパルの白銀の優美な姿が望める。



アブレーションバレーの中の歩き易い道

トレッキングの出だしからきれいな氷河に出会えて、この先の景色の展開に期待が膨らむ。同氷河を横断した後、続いてさらに大きなバルブ氷河（これは表面が土砂に覆われあまりきれいではない）を横断する。そしてバルブ氷河右岸のアブレーションバレーの中のなだらかな道を辿ってベリチョコーラという草原（3,300m）で暮営。

9月12日

テントを出て直ぐにスパンティーク（別名ゴールデンピーク 7,027m）から派生

する尾根上に出るべく、尾根の側壁に付けられた急な道を登る。急登3時間半で尾根上の気持ちのいい草原に出て、思わず「オッー」と声をあげる。そこはグテンスという夏の放牧地で、北にモムヒルサル(7,343m)、トリポール(7,720m)、クンヤンキッシュ(7,852m)などのヒスパーの高峰群が、南にはケツパル、ミアール、プパラシユ(6,785m)などのケバル氷河源頭の山々が、さらに西にはナガール、フンザの谷を隔てて、ウルタルI(7,388m)を主峰とするウルタル山群の山々の展望が広がる最高のビューポイント。暫し景観を楽しんだ後、尾根上の緩傾斜の道を登り、約3時間で幕営地チデンハライ(4,440m)に着いた。

#### 9月13日

当初の予定では、今日はラシユレイク(4,700m)で幕営し、我々とガイドは、そこからラシユピーク(5,098m)を往復する計画であった。しかし、朝出発時にポーターが、「ラシユレイクは雪があつて寒いので、そこで泊まりたくない。今日中にファイアアリ(3,500m)まで降りたい」とゴネ出し、ガイドとコックが説得に努めたが埒が明かない。そのためやむを得ず、我々もキツイが今日中にラシユピークを往復して、ファイアアリまで降りることにした。

テントを出て歩き出すが、景色に見とれたりして、ちよつと歩調を乱すと息が切れる。ゆっくり着実に歩を進めることに専念し、尾根上の道をしばらく登るとラシユレイクに着いた。ラシユレイクは広い尾根の窪地に水が溜まつてできた周囲100m位の池で、その畔は風も避けられ絶好のテントサイトのように見える。昼間はそれ程寒さを感じないが、夜になると寒いかもしれない。

ラシユレイクから上は雪と岩の混在した広い斜面が続いていた。雪に隠れトレールが定かでないので、適当に雪の少なそうなところを選んで登ったが、登るにつれ雪が多くなり足が潜って消耗する。しばらく登るとラシユピークが見える所に出た。

そこから見ると、ラシユピークは槍ヶ岳をさらに鋭くしたような尖峰で、雪と岩に覆われ、ピッケル、アイゼン無しでは難しそうに見える。今回はアイゼン、ピッケルを持って来なかつたので、ラシユピークの登頂は諦めざるを得ないか……。それでも兎に角、手前のピークまでは行こうということで、さらに雪の斜面を登ると大きなケルンのあるなだらかなピークに着いた(2:11:16)。

そこから改めてラシユピークを見ると、岩と雪の急斜面が続き、ピッケル、アイゼン無しでは、やはり登れそうもない。高度差にし

て160m。3人とも体力的にはまだ余裕はあつたが、残念ながらここ(4,938m)を最高到達点として引き返すことにした。

しかしながら、そこからの眺望は素晴らしかった。マルビティン(7,453m)を初めとして、スマイヤール氷河源頭山々が驚くほどの近さで見えるほか、ヒスパー氷河の奥の方の山からフンザの山波までが、一望のもとに見える。そして遠いが、K2(8,611m)やブロードピーク(8,047m)なども見える。地図を拡げて顕著なピークについては、名前と位置を確認し、それぞれの山との対面を楽しんだが、その中でもマルビティンは、1967年のヒンズークシユ遠征の際、許可が得られず断念した山だけに、地図上で三つのピークの位置を確認し、改めて馬の鞍のような形をした台形状の特徴のある山容と対面した時には、感慨は一人であつた。360度の展望を堪能し、去りがたい気持ちを抑えてピークをあとにする。ラシユレイクで遅い昼食を取った後、急斜面の道をひたすら下つて、日没寸前にスマイヤール氷河右岸の幕営地ファイアアリに着いた。

#### 9月14日

テントを出てアブレーションバレーの中の道を少し下つた後、モレーンを越えてスマイヤール氷河に降りる。スマイヤール氷河を横断し、



マルビティン峰

続いてミアール氷河を横断する。上から見てもはつきりと分かったが、スマイヤール氷河は表面が土砂に覆われ黒いのに対して、ミアール氷河は表面に土砂が無く、氷が出ていて白い。同じような地形に隣り合って出来た氷河なのに、どうしてこうもはつきりと白と黒の違いができるのだろうか。我々はちやうど二つの氷河の合流点を横断したが、歩いていても自然の創る不思議を感じ面白かった。

氷河横断後、バルブ氷河左岸の細い崖道を通って本日の幕营地、ハムダール（3, 30



ミアール峰とミアール氷河

0m)に着いた。ハムダールには数軒の石造りの小屋とかなり広い草原があり、出会った村の老人に聴いたところでは、5人で約400頭の羊の世話をしているとのことであった。(4000頭の羊と聞いた時には、貧しうに見えても豊かな村なんだと思ったが、後でガイドに聞いたところでは、羊はホーバル村の共有物で、5人は夏の間だけ村から委託されて世話をしているとのことであった)。

9月15日

所々畑などが広がる歩き易い道を下って、

4日前に横断したケバル氷河の入り口に到着、ここで西遊旅行社のラシュファリツアーのパキスタン人ガイドに出会った。彼は一人先行していて、後からポーターや日本人グループが来る由。氷河横断中に日本人グループに会うのではないかと期待しながら氷河を横断したが、結局、氷河横断中には彼等に会うことはなかった。氷河を横断して最後の登りを登って出発前に泊まったホーバル村のホテルに昼少し前に到着、トレッキングの一幕目を終了した。

(西遊ツアーの日本人グループとはホテルの庭で出会ったが、彼等は我々が到着するの間もなく出発して、言葉を交わす暇が無かった)。この後、待機していたジープでトレッキングの二幕目のラカボシBCトレッキングの出发点となるミナピン村に向った。

## 2 ラカボシBC トレッキング

当初の予定では、ラカボシBCへのトレッキングは考えていなかった。ラシュファリの後は、フンザやナガルとは異なる山城の山を見たいと思って、ゴジャールのパス―氷河か、バツ―ラ氷河でのトレッキングを考えていたが、ガイドがあまりに熱心に勧めるため、予定を変えてラカボシBCへのトレッキングを行うことにした。





グテンスにて

9月15日

ジープでホーパール村を出発し、途中のカリマバードとアリアバードで飲み物（中国製缶ビール、禁酒国のパキスタンでもカリマバードではアルコール飲料が買える）と食料を購入した後、ミナピン村（2,012m）のディランホテルに入る。ディランホテルは、庭からラカポシ（7,788m）が望まれ、広い敷地いっぱいリンゴやクルミ、アプリコット

トの木などが茂り、花壇にはバラやコスモスが咲き乱れ、庭の木陰で好きな本でも読みながら、数日間のんびりと滞在したくなるようなホテルである。

9月16日

ガイドに聞くと、今回はポーターではなく馬2頭（何故か馬方は4名）で荷物を運ぶとのこと。荷物を積むのに時間がかかりそうなので、我々3人とガイドは先に歩き出す。ぶどう、リンゴ、アプリコットなどの並木が続くミナピン村の村道を過ぎてしばらく行くと、水力発電用の取水口がある。道はその辺りから本格的な登りとなり、針葉樹林帯の中の道を登ること約3時間で、ハプクンドという戸数数軒の小さな村に着いた。そこからさらに樹林帯の中を通過して、最後の急な草付きの道を登ると、尾根の上に出た。そこにはミナピン氷河の大バノラマが待っていた。左手には、作家の北杜夫が「白きたおやかな峰」と形容したディランが優美な姿で聳え、右手には、ラカポシ（東峰）が圧倒的なボリューム感を持って佇立している。また、ディラン―ラカポシの間に連なる幾つかのピークも、豊富な雪に覆われ、一枚の白い屏風のように氷河の奥に聳えている。そしてそれらのピークから流れ出した氷河が合流し、巨大な氷河を形成している。我々が立っている所は、広

大なミナピン氷河が、両側の尾根に狭められて谷に落ち込む手前の扇の要のような位置で、そこからの展望は筆舌に尽くし難いものであった。

絶景を堪能した後、氷河に削られた断崖の側壁の道を少し行くと、本日の幕营地、ラカポシBC（3,400m）に着いた。そこはアプレーションバレーの中に開けた草原で、目の前にラカポシが聳え立ち、キャンブ地としては絶好の場所である。なお、そこには関西学院大のディランの遭難碑があった。夕方、岡田、中村両氏は、モレーンの上に登って夕映えのディランの写真を撮ろうと、寒さを堪え暗くなるまでねばっていたが、ディランは期待した程には赤く染まらなかったようであった。

9月17日

昨日登って来た道をミナピン村へ下るべく、テントを出て少し行くと、白い石が散乱している所に出た。ガイドが石を拾い「アクアマリンだ」と言う。見ると白い石の中に緑青色の結晶が星のように散らばっていて、キラキラ輝いている。落ちている石はアクアマリンの原石としては小粒のものばかりだが、ガイドの話によると、左手の山からはかつて大粒のものも見つかったとのことである。歩き易い道を対岸の山々（ウルタルやサン

ゲンマルマルなど)の眺望を楽しみつつ快調に降る。そしてハブクンド村の手前からショートカットの道に入り高度を稼ぎ、昼少し過ぎに昨日出発したミナピン村のホテルに着いた。そこからはジープでフンザの中心地カリマバードまで送ってもらい、ガイド、コックと別れて、トレッキングのプログラムを終了した。

### 3 クンジェラブ峠越えのバスの旅

旅の後半は、バスでカラコルムハイウェイを北上し、クンジェラブ峠を越えて中国のカシュガルに出て、さらに天山南路をウルムチまで行くという旅程で、車窓から中・パ国境の山岳風景を楽しんだ後、シルクロードの名所、旧跡を見学しようという、ちよつと欲張った観光旅行である。

#### 9月19日

カリマバードを出てアルティット城を見学した後、フンザ河に沿ってカラコルムハイウェイを北上する。そしてフンザ河が土砂崩れで堰き止められてできた湖(アタバードレイク)を船で渡り、再びカラコルムハイウェイを北上し、パスター村に入った。

(備考) アルティット城見学時に、城のガイドが「日本のODAのお陰でアルティット

村の上下水道が整備され、住民がきれいな水を飲めるようになった」と、非常に感謝していた。また、カリマバードでも、上下水道が日本のODAで整備され、衛生面での改善がはかられた旨、記した立派な標識を見た。さらに、パスター村では、車体に「Donated by Mikko Nishikori & Family Japan」と書かれたスクールバスに大勢の子供達が乗り込むという、見ているだけでも心温まるようなシーンに出会った。山奥の村での日本の援助のプレゼンスと今回接した村人の親日感が印象的であった。

#### 9月20日

バスで一日滞在して軽いハイキング。フンザ河に掛かるスリル満点の吊り橋を渡り、対岸からパスター山群(最高峰はシスパール7,611m)の山やトウポップダン(6,106m)などのシムシャールの山の眺望を楽しむ。期待していたバツラの高峰群は、パスター氷河沿いの山に遮られて見えなかったのは、残念であった。

#### 9月21日

バスを待つもなかなか来ないので、通りかかった車を捕まえてスストに入る。スストはカラコルムハイウェイ沿いに、軍や税関、イミグレーションなど官公署の建物の他に、ホテルや商店などが建ち並び、いかにも国境の

街という雰囲気のある街である。バスのオフィスに行き明日のタシククルガン行きのバスの切符を買った後、両替店を探し、余ったルピーを中国元に換える。

#### 9月22日

9時に税関と出入国審査場が開くというので、9時少し過ぎに税関のオフィスに行くが、入口には人が群がっていて、どういう順番で検査を受けるのか分からない。それでも建物の外で暫く待っていると、バス会社の係員が我々を呼びに来て、何とか検査を受けることができた。

その後、出入国審査場に行ったが、ここも大混雑。最初、欧米人のツアーのグループが並んでいるラインがあったので、そのうしろに並んだが、なかなか進まない。イライラしながら待っていると、係員が来てこのラインではないと言う。慌てて別のラインに並び直すも、このラインも進むのが遅く、見ていると出国者一人処理するのに5、6分も掛かっている。非効率極まりない事務処理ぶりに、いら立ちを通りこしてただあきれ。結局、我々のバスの乗客全員の出国手続きが終わって、バスが出発できたのは、13時過ぎであった。

スストからカラコルムハイウェイは、フンザ河に沿った険しい地形の中を抜けて行く

が、道路は完全舗装の二車線なので、バスはかなりのスピードで走ることができた。車窓からフンザ河最上流の雄大な景色を楽しんでいるうちに、バスはクンジェラブ峠（4,703m）に到着した（21:30）。峠は、想像していたよりも広くてなだらかな峠で、そこには、国境を示す石柱と大きな石造りの門が建っていた。風は冷たいがバスから降りて、長年の念願だった峠に立つことができた感激を暫し味わう。

峠から少し下った所に中国側のチェックポイントがあり、ここで厳しい検査を受けた。ザツクの中身を全て出させられ、荷物の一つひとつを、また書籍類はページを一枚一枚めくって調べられた。我々のバスは、荷物を満載している他の3台のバスとコンボイ（船団）を組んでいたため、検査に特に時間が掛かった。そして検査が終わってからも、どういう訳かバスの出発の許可が出ず、2時間近くも待たされた後、ようやくチェックポストを通過することができた。このためタシユクルガン（中国側の最初の街）のイミグレに着いたのは、新疆時間で21:30（北京時間では23:30）を過ぎていた。

それから検疫（ここで我々日本人だけポリオワクチンを飲まされたのはびっくり）、入国審査、税関検査を経てようやく入国審査場

の外に出たが、そこは郊外で、辺りは真っ暗でホテルらしき建物も無い。兎に角、今夜泊まる所を探さなければと、道路脇でうろうろしていると、一台のタクシーが寄って来た。ドライバーにタシユクルガンの市街図を示して、市の中心部に行くようにと言ったが、英語が全く通じない。それでも「ビングアン、ビングアン（賓館）」と叫んでいると、どうやら我々の意図を察したようで、市街地の方に向って走り出し、一軒の大きなホテルの前で停まった。

タクシーを待たせフロントで「部屋はあるか」と聞かされたが、これまた英語が通じず苦労する。身振り手振りと言葉を交えて交渉するが、面倒な客お断りという感じで断られ、二軒目のホテルに向う。二軒目のホテルも同じ状況で断られ、三軒目のホテルを探さべくタクシーを走らせていると、入口に人だかりのした小さなホテルが目に入った。タクシーを降りフロントに行くと、パキスタン人が数人いて、その中にたまたまバスの中で一緒だった男がいた。フロントの中国人は英語が全く話せなかったが、彼が通訳してくれて、何とか部屋を確保し、チェックインすることができた。もし彼がいなかったら言葉が通じず、ここでも面倒な客だと思われ、断られていたかもしれない。偶然にバスの同乗者と出会った幸運

に感謝せざるをえなかった。

## 9月23日

昨夜助けてくれたパキスタン人が、「カシユガル行き」のバスは、8〜9時の間に出発する。明朝7時にフロントに来ればバス停まで案内してやる」と言ったので、7時に準備を整えてフロントに行くも、フロントには誰もいない。たまたまフロント脇のソファアードで門番らしい男が寝ていたのので、バスターミナルの場所を聴こうと声を掛けると、「うるさい、あっちに行け」とばかりに怒鳴られてしまった（中国人のホスピタリティの無さに閉口、この後も各所で同じ感想を持つ）。

バスの時間を気にしながらしばらく待っていると、一人のパキスタン人が階段を下りて来た。藁にもすがる思いで彼にバス停の場所を聞くと、「タクシーで行くように」と言っていて、親切にもタクシーを捕まえるのを手伝ってくれる。ホテルの前でタクシーが来るのを待っていると、一台の小型トラック（2列の乗用座席があり4人は乗れる）が寄って来て、「カシユガルまで一人100元で行く」と誘ってきた。一人100元はバス代よりも安いので、俄かには信じられなかったが、運転手の顔を見ると、おとなしそうな人相をしており、念のため紙に「一人100元」と書いて確かめると、イエスとばかりに首を振るので、信

用してその車に乗る。

カシユガルまで322km。車はタシユクルガンの街を通り抜けて、土漠の中の道を猛烈なスピードでカシユガルに向う。車窓の外には荒涼とした大地が広がっていて、雄大な景色が楽しめるはずであったが、この日は黄埃が舞い、まさに長恨歌（白居易）に謳われた「黄埃散漫風蕭索」の状態、何もかもが、黄色く霞んでぼんやりとしか見えない。車の中においても埃で息苦しくなる程である。しかしながら、途中で道路脇の標識に「葱嶺」という文字を見つけて気がついた。今、我々は子供の頃、「世界の屋根」と習ったパミール高原を旅しているのだと！ そうなると面白いもので、黄埃にも何かロマンを感じ苦にならなくなった。

しばらく行くと右手にムスタグアタ（7,546m）が、さらに進むとコングール（7,719m）が見えて来た。二つとも豊富な雪に覆われた堂々とした山で、空気が澄んでいればさぞかし絶景だろうと思われたが、この日は残念ながら黄埃と逆光でぼんやりとしか見えなかった。

タシユクルガンから約5時間のドライブでカシユガルに着いた。車は市の中心エリアに入れないということで、街中の大きな交差点で降ろされたが、幸いそこには多くのリヤ

カータクシー（オートバイでリヤカーを引くもの）が客待ちしていたので、それに乗り換えて其尼瓦克賓館に向った。同賓館は、1940年代にエリック・シプトンが総領事として駐在した英国領事館の跡地に建てられたもので、今では高層ホテルとなっている。予約していなかったが、3人部屋が思ったよりも安い値段で確保できた。

#### 4 天山南路（シルクロード）のバスの旅

9月24日

カシユガル滞在。まず郊外の国際バスターミナルに行つて明日のクチャ行きバスの切符を買う。その後、エイティガル寺院（1422年に創建されたイスラム教の寺院）、果物街、職人街、帽子街、スパイス街、老城（旧市街）などを歩いて回る。カシユガルは、嘗てシルクロードの交差点と言われただけあつて、老城やバザールなどを回ると、迷路のように交錯した街路と軒を連ねる露店にその雰囲気を感じられ、観光していても興味が尽きない。なお、ここカシユガルの属する新疆ウイグル自治区は、ウイグル人のテロなどがあり、厳重な警戒態勢が敷かれていると言われているが、街を歩いてみた限りではそれ程緊張した雰囲気は感じられなかった。

9月25日

カシユガルからクチャまで734kmを寝台バス（昼でも横になれてラク）で移動。途中、天山山脈とタリム盆地（タクラマカン砂漠）の雄大な景色が楽しめるかと期待していたが、車窓には単調な土漠の風景が続くばかりで、期待外れ。予想以上に時間がかかって、クチャに着いたのは23時過ぎとなり、またまた深夜のホテル探しとなつてしまった。

9月26日

クチャ滞在。クチャは天山南路のオアシス都市で、紀元前2世紀末から10世紀頃まで栄えた亀茲<sup>きじ</sup>国の都であつたため、周辺に史跡が多く存在する。終日タクシーと歩きで市内の名所を回る。たまたまモナエシディン・マザールというイスラム教の伝道師を葬つた墓所の観光を終わつてタクシーを待っていると、公安警察に呼ばれ事務所まで連れていかれた。警官の態度はそれ程高圧的ではなかったが、パスポートチェック、所持品検査のほか顔写真まで撮られたのには???

9月27日

夜行バスの発車時刻まで時間があるので、タクシーでクチャ郊外のキジル千仏洞、クズルガハ千仏洞、クズルガハ烽火台、スバシ故城（明治36年大谷探検隊が発掘調査を行っている）などの亀茲国時代の仏教遺跡を見学。



その後、夜行寝台バスでウルムチに向う。ウルムチまで746 km。途中に輪台という街があり、そこまでは24年前に出張(タリム油田ミッション)で来たことがあるので、石油開発後の街の変貌ぶりが見られるかと期待していたが、暗くてよく分からなかった。ただ、当時は、ウルムチから輪台まで車でマル二日

かかったが、今回は12時間位しかかからなかった。道路が格段に良くなっていることだけは分かった。  
**9月28日**  
 10:00、ウルムチ郊外のバスターミナルに着、近くの食堂で朝飯を取った後、タクシーでウルムチ駅前の新疆飯店に行つて宿を取

る。午後、中国南方航空のオフィスに行つて北京行きの航空券を買った後、夕方まで人民公園や市街を散策。  
**9月29日**  
 終日ウルムチの市内観光。ウルムチは新疆ウイグル自治区の首都だけあって、高層ビルの建ち並ぶ大都会である。タクシーと歩きで紅山公園、繁華街、二道橋市場などを回る。途中、人民公園近くの旅行代理店を覗いたところ、「明日トルファンへのバスツアーがある」というので申し込む。  
**9月30日**  
 トルファンへのバスツアーに参加し、30数人の中国人と一緒に、交河故城、葡萄園、火山山など8ヶ所の観光スポットを

回った。ガイドの説明が中国語で全く理解できなかったが、訪れた場所は見ごたえがある所が多く、また、西遊記で馴染みのある所などもあり、それなりに楽しむことができた。さらに、トルファンは標高がマイナスなので(岡田、中村両氏の高度計でもそれが確認できた)、ツアー参加により、海面下の土地を踏むという得難い経験ができたのも良かった。  
 しかし帰路、ウルムチ市街に入る手前で大渋滞に会い、ホテルに戻ったのは、またまた真夜中近くとなってしまった。夕食を取っていなかったため、かろうじて開いていた店でパンと缶ビールを買ってホテルの部屋でわびしく食べたが、それでもトルファンツアーで、シルクロードの旅の有終の美を飾ることができたので、気持ち的には満たされた気分であった。  
 以上で、二つのトレッキングと、約3,300 kmのバス(一部チャーター車)の旅を終え、10月1日、ウルムチから北京に飛び、北京で一日観光した後、10月3日、無事帰国した。振り返ってみると今回の旅は、過去5回のヒマラヤの旅よりも想定外のことが多く、よりイライラ、ハラハラ、ドキドキの旅であったが、同時に見たかった景色も多く、ワクワクの旅でもあった。

## 初鹿野の山々

— 徳並山・古部山・三角コンバ

藤原 朋信 (昭44年卒)

日時 1月18日 (日)

甲斐大和駅 9:30 ~ 徳並山 10:30 ~ 古部山

11:35 ~ 境沢の頭 12:45 ~ 宮岩山 14:00 ~ 甲

山高尾山 15:00 ~ 勝沼ぶどう郷駅 16:05

メンバー 中村雅明 (43)、藤原朋信

天気 快晴、北風寒し

関東近辺の日帰り可能範囲で空白地域にあたる初鹿野の山が以前から気になっていた。大菩薩から南に連なる小金沢連峰の西に日川をはさんで平行に走る山地である。途中、枝尾根を多数分けながら初鹿野の部落に至る。本ルートは踏み跡も確かでないので、藪のない冬にトライということで昨年12月に単独で甲斐大和駅を出発した。駅から北上し境沢の頭で西の枝尾根に方向を転じて、(学生と10月に登った)宮岩山・棚横手山に繋げて勝沼に下りる馬蹄形のコースである。

駅から向かって右側の尾根に取り付き音沢の頭 ~ 木賊山 ~ 古部山 ~ 三角コンバまでは順調だったが境沢の頭手前で巻き道(作業道)に誘い込まれて予定外の林道に下りてしまい結局、宮岩山に行きつけなかった。

一方、中村さんは中央線沿線の山シリーズということで、同じ山域に眼をつけられ、1月前半に駅から向かって左側の徳並山から古部山に出て境沢の頭を指されたが途中(通常こちらが正解に見える)枝尾根に迷い込みそのまま林道に下り勝沼に出られた。それぞれ単独で失敗したので、今回は二人が力をあわせてのリベンジ山行と相成った。

いつもの8時20分高尾発の電車で中村さんと落ち合う。冬場はまだ暗く寒く5時台に家を出るので体内時計がなかなかうまく動かない。数日前に都心でも小雪がちらついていたが積もるほどでもなく、山も1500m未満の高さなので大したことはあるまいと高をくくっていたが、大月過ぎた辺りから雪が目立ち始めてきた。笹子峠直下である初鹿野は日陰で5~10cmの積雪があり、後でスパッツを忘れた事を大いに悔やむことになる。

甲斐大和駅からは中村さんの前回のルート探索が生きて古部部落のお宮さん、ぶどう畑と最短コースを辿る。ぶどう畑が切れて最後

に鹿除けフェンスを越えれば人間界からはしお別れである。ここから徳並山への踏み跡は明瞭だが尾根を直線的に上るのでかなりキツイ。なのに今日も中村さんは快調で落ち葉と雪で不安定な尾根道をものともせずペースをあげ、徳並山には1時間で到着した。頂上からは予期していた以上の大展望である。雪化粧した南アルプスの3000m峰が甲斐駒から聖岳まで勢ぞろいでまさに眺望に最適な冬の山歩きの醍醐味を満喫した思いである。

徳並山からは雪も深く、下りでどかどか歩くと靴の中に雪が入り込む。雪の進入を阻止すべく慎重に歩けば、中村さんと離れる。悪戦苦闘しながら小ピークを三つ越えると古部山であった。右手から音沢の頭コースが合流している。ここでアイゼンを装着したが、風が冷たく休憩も早々に切り上げ、いよいよ迷路ゾーンに突入する。

だだっ広い1413m峰で、直進する枝尾根(前回中村さんが迷い込んだ地点)を見極めて、右に直角に曲がる。次に三角コンバ(名前の由来は不明だが三叉路ぐらいの意味か?)を左に曲がり境沢の頭直下に出た前回の反省から、今回は頂上に向かう。

境沢の頭は、伐採されていて四方良く見える。1459mと今回コースの最高地点でも

ある。富士山・南アルプス・八ヶ岳・金峰山とカメラ好きなら絶好のビューポイントだ。

境沢の頭から源次郎岳・上日川峠に繋がる北上コースは次回以降の楽しみとして、今日は西に向う。宮岩山は目の前に見えているが道は分かりにくい。しっかりと道形はだいたい別の場所へ誘い込む悪魔のワナである。とにかく尾根を外さずに歩くことを心がける。それでも途中何度かワナにはまり込んだが、すぐに引き返し尾根を辿る。14時ついに見覚えのある宮岩山に到着した！

棚横手山・甲州高尾山の下りは良く踏まれているので、火事の副産物で開放的な空間が広がっている景色を楽しみながらのんびりと歩いた。ルート探しの緊張感からも解放されて気分も軽い。甲州高尾山の先の鞍部で縦走路と離れて勝沼駅へショートカットする。うす暗い西面の谷なので残雪があり下りやすい。暫く下りると山腹に作業道らしきものが出てきた。これを辿ると勝沼ぶどう郷のぶどう畑に着いた。

初鹿野の山々は人気の無い（だから人もいない。今回も誰にも会わなかった）不遇な山だが、それだからこそ我々は大いなる恵みを貰った。良い山行でした。

## 会津の山

斎藤 誠（昭63年卒）

福島県の西部、会津地方は5420km<sup>2</sup>を有し、千葉県より広大な面積に28万人弱が暮らしている。一昨年の大河ドラマ「八重の桜」のヒットにより、原発事故の影響を受けた会津観光は復活の途にいたが、ご多分に漏れず2015年は激減している。15年4～6月にかけてJRのデスティネーションキャンペーンが福島を舞台に展開される予定なので、ぜひ皆様にも足を運んでいただきたい。首都圏から会津へ向かうには、鉄路の場合、東北新幹線で郡山、磐越西線で会津若松に向かうか、東武線で浅草から会津高原尾瀬口に入るルートがあり、いずれも3時間程度。車の場合は東北道郡山ジャンクションから磐越道に入るルート、東北道西那須野塩原インター下車400号で南会津町へ入るルート、東北道白河インター下車289号で下郷町に入るルートが選べる。3～4時間程度の道のりか？意外と近いとは思っていただけな

いだろうか（※1）。

百名山では北に飯豊山、南に燧ヶ岳、会津駒ヶ岳、東に会津磐梯山、安達太良山、吾妻山がそびえ立ち、特に新潟県境に至る南西部では多くの山々がその魅力を競い合っている（※2）。地元保健所が音頭を取り会津百名山が選定され、1998年に出版されている。

針葉樹会の面々とは、亡くなった近藤さんはじめ、兵藤さん、佐藤活朗さん、川名さんとの博士山（1482m、※3）など、山スキーで何度か訪れ、ブナの森を滑走している。道のない山ではあるが02年に「岳人」が選んだマイナー名山に丸山岳、毛猛山が選定されているほか、明神ヶ岳、御神楽岳、志津倉山など伝説に彩られた山々が目白押しだ。

新潟県と接する只見町には豊かなブナ林が広がっており、14年6月には南アルプスとともにユネスコエコパークの認定を受けた。

11～13年の3年間、縁あって奥会津の三島町に勤務した。高齢化と過疎化が進行する町村の活性化を目指して設立された「奥会津振興センター」の初代駐在員となったものだ。桐の産地で、GW明けには紫の花でいっぱいになる。国の伝統的工芸品の指定を受けた山ブドウやヒロロなどの編み組み細工が盛んで、手提げ籠は「山ヴィトン」と称され、高級ブランドの「ルイ・ヴィトン」同等の価格



学生時代と変わらぬシブイいでたちの筆者(左)と川名さん。博士山で



博士山のブナ林を滑降する故近藤さん

で取引される。

会津生まれの私にとっても、自分が生まれた会津美里町より西側には、とんと目が向かなかつたものだが、その駐在により、会津の奥深さ、奥会津の魅力に開眼させられたものだ。特に温泉はすばらしい。小さな温泉がいたるところに噴き出し、山の麓には必ずと言っていい程、安価に利用できる共同浴場がある。

中でも南会津町の湯ノ花温泉、木賊温泉の共同浴場は河原に面して魅力的だ。国内最大規模の地熱発電所がある柳津町の西山温泉も旅館ごとに源泉を持ち、それぞれの味わいを出している。

次に日本酒。福島県は2年連続で全国新酒鑑評会の金賞受賞数が日本一であり、その多くが会津の酒である。名水に恵まれた会津の酒の味を一言で言うと、実にきれいな酒質。フルーティでふくよか、そしてすーっと流れるような喉越しが大きな魅力だ。端麗辛口ではない。会津若松、喜多方には多くの蔵元があるが、更に奥まったところに位置する蔵元はまた別の味わいがある(※4)。会津坂下町を中心とした赤みの馬刺しを特製のからし味噌で食べるのが肴には最適だ。

会津はまた、奈良、京都、鎌倉、平泉と並び5大仏都と称されることもある。修学旅行

で会津から奈良の薬師寺を訪ねると、必ず会津の仏像は見てきたか? と尋ねられるものである。その最高峰が勝常寺にある国宝薬師如来。ふくよかな像は一見の価値がある(要予約、冬は閉館)。

1月7日に開かれる柳津町の福満虚空蔵尊圓藏寺の七日堂裸参りにここ数年参加しているが、雪の中をふんどし一本、裸足でお参りすると、一年の無病息災が約束されるようである。あわ饅頭が銘菓。

私自身、会津の山を隅々まで踏破、というレベルではない。ぜひ、みなさんと会津の新しい魅力を発見していきたいと願っている。

#### ※1 鉄道

この辺りは鉄道好きには有名なJR只見線がゆっくと走っていた。東日本大震災の陰に隠れて目立たなかったが、11年7月末に発生した新潟福島豪雨の被害により鉄橋3本が流失し、現在でも会津川口〜只見駅間でバス代行運転となっており、JRとの交渉が続けられている。生活路線としてはとてもベイスる路線ではないが、鉄路はつながってこそ価値あるもの、東北新幹線と上越新幹線とを結ぶ魅力的な観光路線として、ぜひとも復活してほしいものだ。

## ※2 会越国境の山

残雪のGWにチャレンジしたいのが会越国境の山々の縦走。未丈ヶ岳、毛猛山、浅草岳などの名峰が並んでいる。新潟県のシルバールインから丸山スキー場、福島県只見町の田子倉湖を起点とするが、いずれもアプローチに時間を要する。私は田子倉湖から毛猛山を往復したのみだが、前神さんが学生の頃縦走した、と聞いたような記憶がある。奥深いのが故に魅力的な山域だ。

## ※3 博士山山スキーと温泉

14年3月21日(金)から22日(土)にかけて兵藤、佐藤、川名、齋藤の4名で博士山山スキーを楽しんだ。21日は三島町の宮下温泉ふるさと荘で前泊し、22日に日帰り山行。柳津町琵琶首、下平の社から登り始め、1476峰を経て1482mの博士山を目指したが、ふぶき始めたこともあり、1476峰で登頂と見做して下山。滑走はロングルートとはいかないが、ブナの林を登って行くルートは落ち着いた山登りを楽しめる。下山後は西山温泉せいざん荘で汗を流した。ここでは単体では日本一の出力6・5キロワットを誇る西山地熱発電所が稼働している。温泉の中に神社が祀られている老沢温泉など、個性的な鄙の宿が散在していて魅力的だ。

## ※4 奥会津の日本酒

「南会津の4銘柄」 国権、男山、金紋会津、花泉 「会津坂下町の3銘柄」 廣木(飛露喜)、曙(天明)、豊国 「会津美里町」 萬代芳。JR神田駅と三越本店との間に福島県のアンテナショップ「ミデッテ」があり、500円で3銘柄を試飲できるコーナーがあるので、ぜひ訪れてほしい。

「生青春」 生産者の曙酒造は会津坂下町に位置する小さな蔵元。会津坂下では3つの酒造が隣接しており切磋琢磨している。また隣にある五ノ井酒店ではオリジナルブランドの「央」を生産しており、近藤さんと楽しんで銘酒である。五ノ井酒店さんが冬、曙の蔵に通い詰めご自身の舌が選んだ酒を特別に直汲み瓶詰めした数量限定の特別な酒。

「国権」 〓この堂々たるネーミングが何とも気になる銘酒。私が福島県の職員となった初任地の南会津町田島にある酒蔵。名前に負けない堂々たる味わい。阪神ファンにはたまらない虎マークの「俺の出番」もおすすめ。

(编者注) 勝常寺「国宝 薬師如来坐像および両脇侍立像」は、東京国立博物館の特別展「みちのくの仏像」(15年4月5日まで)で拝観できます。

## 「FN短大」の記録

(2014年10月〜2015年1月)

中村 雅明(昭43年卒)

9月23日(火)「秋分の日」

川苔谷逆川

川乗橋〜逆川下降点〜逆川沢登り〜ウスバ林道〜大ダワ〜鳩ノ巢駅

参加者・藤原、(学生) 太田

今年の夏の沢登りの最後に川乗谷に入った。逆川下降点を見つけるのに手間取ったが、後は順調にゴルジュ及び連続する滝場を楽しんだ。帰りにウスバ林道利用で楽に駅まで戻れた。

9月28日(日)

小仏城山・高尾山

相模湖駅〜弁天橋〜城山〜高尾山〜稲荷山コース〜高尾山口〜四辻〜JR高尾駅

参加者・佐藤、上原、塩川、竹中、本間、高崎俊、吉川、藤原、宮武、前神、松田、(学生) 黄、太田、鈴木

二班に分かれて城山まで歩いた。城山からは別行動で本隊は高尾山口から更に足を延ばして四辻に上り、JR高尾駅へ出た。最後は

立川の居酒屋で合流し懇親会となった、塩川さんが永い米国生活を切り上げて日本での新たな山歩きを始められたとの報告があった。

10月11日(土)

甲州高尾山、棚横手山、宮岩山

勝沼ぶどう郷駅→甲州高尾山→棚横手山→宮岩山→大滝不動尊→勝沼ぶどう郷駅

参加者：藤原、(学生) 黄、大矢

甲州高尾山へは一般道でなく剣ヶ峰手前鞍部まで急な斜面を登る。好天に恵まれ富士山の展望を楽しんだ。

10月25日(土)

塔ノ岳、丹沢山、蛭ヶ岳

大倉→塔ノ岳→丹沢山→蛭ヶ岳(往路を下山)

参加者：高崎(俊)、岡田、中村(雅)、藤原、(学生) 上、大矢、内海

上は蛭ヶ岳往復、大矢は蛭ヶ岳1000m手前まで、内海は丹沢山まで。中村は大倉から丹沢山。内海と一緒に下山。藤原は丹沢山上、大矢を待ち、3人で大倉に下山。高崎は先行し大倉から丹沢山往復。岡田は大倉から別行動で塔ノ岳から三ノ塔経由で大倉に下山。大倉→塔の岳の登りはペース上げて2時間10分を記録したが、帰りの塔の岳→大倉も

同タイムの2時間10分であった。通常上り下りが同タイムはありえないが下りに弱い1年生の面目躍如？であった。今後の強化ポイントである。

11月23日(日)

鋸尾根、御前山、湯久保尾根

奥多摩駅→(鋸尾根)→御前山→(湯久保尾根)→白倉バス停

参加者：藤原、前神、(学生) 黄、辰川、大矢、内海

御前山から三頭山に向う予定だったが湯久保尾根から檜原村に下山。

11月30日(日)

大菩薩峠・牛ノ寝通り

甲斐大和駅→(バス)→上日川峠→大菩薩峠→(牛ノ寝通り)→小菅の湯→(バス)→上野原駅

参加者：中村(雅)、藤原、(学生) 黄、太田、辰川、内海

上日川峠から大菩薩峠までコースタイム1時間半のところを50分のスピード。牛ノ寝通りは落葉の道を快適に歩く。

12月4日(木)

乾徳山

塩山駅→(バス)→乾徳山登山口→乾徳山→乾徳山登山口→(バス)→山梨市駅

参加者：中村(雅)、藤原、(学生) 太田、西山、上、内海

山頂近くの岩場鎖場は岩登りの練習になった。登り下りともハイスピード。(コースタイム7時間のところ約4時間)

1月4日(日)

葉山アルプス

逗子駅→(バス)→風早橋→仙元山→大山→森戸川→二子山→東逗子駅→鷹取山→追浜駅

参加者：岡田夫妻、中村(雅)、藤原、(学生) 黄、西山、辰川、大矢

新春初歩き。住宅地から登るコースにしては深山の雰囲気があり、沢歩きもある変化に富んだコースだった。

1月11日(日)

三ツ峠

三ツ峠駅→三ツ峠山→(北口登山道)→宝鉱山→(バス)→都留市駅→追浜駅

参加者：中村(雅)、藤原、(学生) 高橋、西山、太田、上

## 会務報告

本コースは2009年5月の新人歓迎山行と同じコース。山頂近くの岩場で岩登りトライ、下りは良いアイゼン歩行訓練になった。

### 【総括】

1. 平成25年10月にスタートしたFN短大も2年目に入り、部員数の増加を反映して参加する学生も毎回3〜4名となり、実施し甲斐がある。
2. 山に慣れ親しみ、体力をつける目的は達成しつつあり、最近は一コースタームより早く歩ける様になった。
3. 山行記録を書くことも身について、最近「HPの「国内山行報告」は学生の報告がオンパレードであることも喜ばしい。
4. FN短大は本年5月で終了し、その後はFN塾として、縦走、岩登り、沢登りなどOB自身の山行に誘う方針。
5. 学生には学生自身が山行を計画する機会を増やし自立することを期待する。

### ■平成26年度新年会・臨時総会報告

2015年1月21日 如水会館 記念室東

出席者 石原脩(昭30)、高崎治郎(昭31)、佐藤恭(昭31)、上原利夫(昭33)、仲田修(昭36)、遠藤晶土(昭37)、竹中彰(昭39)、小島和人(昭40)、高崎俊平(昭41)、佐藤久尚(昭41)、池知昭洋(昭41)、岡田健志(昭42)、吉沢正(昭42)、中村雅明(昭43)、宮武幸久(昭45)、井草長雄(昭48)、小宮山尚与志(平26)

《学生》 町田広樹(法4)、高橋直道(法3)、太田貴之(商3)、大矢和樹(法1)、内海拓人(法1)

- ▽挨拶(新年を迎えて) 竹中会長
- ▽臨時総会 《議案》部室再塗装の件
- ▽乾杯・挨拶 石原相談役
- ▽会食・懇談
- ▽スライドショー 岡田健志
- ▽学生部員の挨拶
- ▽山讃賦合唱のち中締め 小島副会長

如水会館に約20名の会員と学生5名が出席して新年会が開催された。冒頭部分を臨時



総会とし、「国立部室外壁の再塗装」が提案・承認された。

竹中会長からは、一橋山岳部には現在18人が在籍し、公募富士登山を8月に一般学生9名を含めて総勢22名で実施する等、学内における知名度も上がっている、今後も人的、財政的に支援体制を充実させたい。中村（保）さんは、恒例のチベットの踏査に向かわれ、またU A A総会では名誉会員に推挙され、世界の主要山岳団体の名誉会員を絵なめにされる等、国内外で活動されている。平成二四年に創部九十周年事業としてスタートした「芦安・夜叉神峠周回登山道整備」では引き続きフオローアップの登山道整備が行われた。海外ではカラコルムからフンザのトレッキング、国内では北海道東部の山に向うパーティーなど登山活動も活発に行われた。今年も安全登山に努めて元気に活躍いただきたい旨の挨拶があった。

この後、石原元会長による乾杯、懇談、岡田会員のスライドによる『カラコルム・シルクロードの旅』トレッキング報告、学生部員の自己紹介の後、恒例の「山讃賦」を歌い、小島副会長の中締めで散会となった。

#### ■臨時総会事務報告

開催日当日の会員数142名の内、出席者

17名、ハガキ及びメールの返信による出席者57名、合計74名の出席しており、定足数を充足して総会は成立。

▽提案内容Ⅱ部室外壁塗装費用として250,000円を上限として26年度予算に追加計上、支出すること。

▽結論Ⅱ出席者17名全員の賛成、会長への委任状提出者37名、返信による賛成20名、返信による反対0名により、提案は可決承認された。

一橋山岳部の部室は、1999年に新築され、2008年に会員有志の手により外壁の再塗装を実施しました。その後7年が経過し、塗装効果も薄れ、再塗装が必要となってきた。大学の構内作業を請け負っている業者に大学経由で見積りを依頼し、80万円を超える金額の提示を受けましたが、金額的に現在の針葉樹会の財務状況からは負担が大きすぎるとの結論に至りました。その後も検討を続け、作業の一部を学生部員及び針葉樹会員のボランティアに依頼すると同時に、宮武さん（昭45）の友人で塗装業を営む方の協力を得られる運びとなり、費用は約22万円の見積りを得る事が出来ました。

見積もり金額の内容は、税込212,760円（内足場代165,000円、塗料代20,800円）ですが、その他諸経費を勘案して、

総額250,000円を上限に本年度追加予算として計上することにしました。

ちなみに、国立キャンパスの部室（ログハウス）の所有権は大学（国）にあります。部室建設時の取り決めにより、メンテナンス費用は山岳部が負担することになっていました。

#### ■高谷山周辺の登山道修復作業

2014年度の芦安・高谷山周辺の山道修復作業は予定通り実施されましたので以下概要をご報告いたします。

日時 2014年11月15日（土）16日（日）の二日間。

参加者 15日16日の二日間で、芦安ファンクラブ6名、富士通アイネットワークシステムズから15名が参加。針葉樹会からは、上原、本間、小野、高崎（俊）、佐藤（久）、岡田、中村（雅）、宮武、小島の会員が両日参加しました。また現役員3年の太田貴之君が15日に参加しました。

#### 作業概要

計画段階では高谷山からカンバ平への山道の修復を意図していましたが、芦安ファンク

ラブからの要請で以下の2か所の作業としました。

①一昨年修復した芦安トンネル東口から檜尾峠間の登山道上の土砂除去。昨年来の大雨により土砂崩れた部分の道及び土砂に埋まった階段などの土砂撤去を実施。

②檜尾峠から桃ノ木鉱泉に下る尾根道で本年、道に迷う登山者のために救助隊が出動する事件が2度発生したとことで、檜尾峠から同尾根道の1200m付近から分岐して芦安山の上(芦安山岳館側)に下るルートにつき、ルート設定して赤布マーキング、急斜面ロープ張、階段の設置、を実施しました。

#### その他

本年の作業により、高谷山↓檜尾峠↓芦安トンネル東口のルートと、高谷山↓檜尾峠↓大骨山↓芦安山の神(山岳館近く)ルートの二つのルートができて、夜叉神峠へのハイキングも選択肢が増えました。会員のお友達との山歩きに是非ご利用ください。

なお、1200m付近から桃の木鉱泉に下る道は何ら補修がされておらず急峻なままです。ご利用は控えて頂くほうが良いと思います。

(昭40卒 小島和人)

#### ■国立キャンパス部室の外壁塗装

2014年1月24日 実施

幹事 宮武幸久、前神直樹

参加者 中村雅明(昭43)、藤原朋信(昭44)、

宮武幸久(昭45)、金子晴彦(昭46)、西

牟田伸一(昭47)、井草長雄(昭48)、前

神直樹(昭51)

〔学生〕太田貴之(商3)、西山祥紀(経3)、

辰川貴大(法2)、上茂衡(法2)、内海拓

人(法1)

今回の外壁丸太塗装は、昨年の新緑の宴の帰りがけに竹中、岡田、中村の3会員が「外壁の再塗装をしなければ」と意見一致し、気の早い岡田さんと中村さんが学生支援課に立ち寄り、施設課の武藤課長を紹介され業者への見積もり依頼をしたことからプロジェクトがスタートしました。

提出された見積り金額が80万円とかなり高かったため、金子さんと前神さんが前回塗装と同様に自分達で作業しようと提案、それを受けて宮武さんが業者を探し、前神さんと一緒に作業具体化↓予算申請↓臨時総会で承認↓即実施と関係者の連携が見事でした。

前回と違って業者にしっかりと足場を組んでもらったために、安心して効率よく作業

ができ、また学生とOBの共同作業で人数も集まったため、10時スタートで予期した時間より大部早い午後2時半に無事作業終了しました。岡山県矢掛町から夜行バスで駆けつけ、早朝より作業にかかった金子さんはじめ、みなさんご苦勞様でした。

ちなみに、金子さんが調べたところによると外壁の丸太を磨く費用は3500円/平米



だそうです。と言うことはあのタワシで埃を落とす作業だけで80平米×3500円＝最低28万円ほどの市場価値があったと言うことです。

\*H U H A Cのホームページに金子さんの投稿した塗装作業の記事が掲載されています。

## ■山岳部員の活動

2015年の山岳部体制は次のようになつたと報告がありました。任期は1月1日～12月31日。(学年は、2015年1月1日現在)

部長 高橋直道(法3)  
副部長 太田貴之(商3)  
副部長 西山祥紀(経3)  
会計 辰川貴大(法2)

また、H U H A Cのホームページに現役部員からの次のような山行記録が掲載されています。どうかご一読ください。

2014年9月5～8日 北岳

……太田貴之(商3)

9月12～15日 酒沢合宿



三ツ峠山頂で。左から 高橋、太田、上、石山

……太田貴之(商3)  
10月11日 甲州高尾山、棚横手山、宮岩山  
……大矢和樹(法1)  
10月18～19日 廻り目平合宿  
……岡田堯之(経2)  
10月25日 丹沢(塔ノ岳、丹沢山)  
……内海拓人(法1)  
11月23日 鋸尾根、御前山、湯久保尾根  
……大矢和樹(法1)  
11月30日 大菩薩峠・牛ノ寝通り



葉山アルプス新春初歩きで、二子山

……辰川貴大(法2)  
12月14日 乾徳山……  
内海拓人(法1年)  
2015年1月4日 葉山アルプス新春初歩き  
……大矢和樹(法1)  
1月11日 三ツ峠  
……西山祥紀(経3)  
2月7日 日光雲竜溪谷  
……上茂衡(法2)

## 会員の近況報告

- 昭23 大島理則 10月末で満92才、昨年より老害が無い様に、公の活動は止めました。
- 昭28 海老澤齊 余り活動していません。
- 昭30 石原脩 今年は体力回復の年でした。12月9日から4日間、丸沼で初滑りをしてきます。
- 昭31 石和田四郎 11月22く23日の石井先輩追悼会ではいろいろとお世話になりました。針葉樹会の発展を祈っております。「一息心経」を心がけております。心肺機能の維持(向上)にでもなれば「一石二鳥」などと夢想しながらです。
- 昭31 瀬田宏 週4回世田谷から渋谷まで歩いています。
- 昭33 上原利夫 今年、体調改善に注力したいと思います。4月第3日曜日の深田祭(茅が岳麓の深田公園)で「山恋しくて鳳凰三山」を参会者と歌う予定です。
- 昭33 加地幸雄 既に過ぎ去った年は、山行日数62日でした。大部分は、地元のユタの山ですが、ブータンヒマラヤやコロラドロッキーにも脚を延ばしました。ブータンは娘と息子と友達同行の山歩き二週間、中国との国境、中村さんの地図に Gomohari

- 7368mとある峻嶺からの氷河の直下、絶景の谷を基地として幕営、地元の人たち六人と馬六頭のサポート隊を伴う殿様行列でした。
- 昭33 沢木一夫 昔の山仲間が皆彼岸に渡ってしまい、索漠たる想いで毎日を過ごしております。
- 昭34 市川陽一 新年早々当地京都は平地でも25センチの積雪でした。京都在37年になりますがこれ程の雪は初めてで、61年ぶりと報道されてきました。
- 昭36 有賀盈 このところ長野県は豪雪、地震、火山爆発などに見舞われていますが、此処松本はいずれも軽微な影響ですんでおり、お蔭で元気に過ごしています。
- 昭37 宮本英治 2014年5月 笠ヶ岳、7月 八ヶ岳赤岳等に登りました。但し年々体力の衰えを自覚せざるを得ません。
- 昭39 蛭川隆夫 元日に、旭岳の中腹(窈見の池周辺)と山麓の針葉樹林帯でスノーシュー・ハイカーとしてデビュー。2月には北大山岳部OBの指導でイグルー作りに挑戦する予定。今話題沸騰のトマ・ピケティ『21世紀の資本』種瀬ゼミ出身者として読むべきと思ったが、728ページと聞いてちよつと腰が引けるこの頃です。
- 昭39 竹中彰 相変わらず、2月のJAC東

- 京多摩支部5周年記念事業の準備作業、登山教室対応等に当たっています。今シーズンはまだもう少しスキー技術向上に励めればと思っています。
- 昭39 村上泰介 歯は欠けるし目は霞むし肩は痛むし物忘れはするし思考力は落ちるし、やれやれです。
- 昭39 中橋寿雄 自力で歩けることが、人間にとつて如何に大切かを痛感しています。でも、もつとつらい思いをしている人も沢山いることでしょう。痛みを感じられるのも「生きている証し」です。楽しんで過ごします。
- 昭41 坂井溢弘 お陰様で元気です。宮武さんのご高尽で部屋塗装が安く出来るのと、と、何よりです。
- 昭41 池知昭洋 山歩きは出来ませんが麓と会合なら行けます。
- 昭42 齊藤正 今、山に関する私の関心は、「あと何年やれるかわからない、そして余り山には割けない時間の折り合いなどを考え、いくらでも元大学…元一橋大学…らしい老人の山のぼりを大切にしたい…」ということ。そこで3年前から大には縁のある甲斐駒・仙丈・北岳の自分にとつて未登或いは余り人が群れないあるいはこれまで一橋大学が余り知らない尾根

や谷をやれる範囲多少の緊張感をもって登ろうと思っているわけです。

主要な尾根筋は昨年八丁尾根を登り（ただし訳あって途中の鞍掛山まで）ほぼなくなりましてので、今年は小太郎尾根を末端部から登るとか、北岳・間ノ岳の荒川側を登るとか、中白根沢を遡上して間ノ岳とか考えております。が、どうなることやら。もし一緒にできる方があれば……と思っっている次第です。

昭51 藤本敏行 昨年末に上海駐在を終え、日本に戻りました。

昭51 加藤博行 今年の新潟は、11月まで暖冬に推移したものの、12月始めから、波状的に寒波到来し、平成17―18年以來9年振りの雪の多い寒い冬となっております。上越、信越国境とも大変な大雪ですので、今はとても入る気がしませんが、4月終わり頃は十分雪の残っている山が楽しめるころと思われまます。

昭56 中西茂 毎日、メールにて皆様の活発な登山活動については、敬服致しております。当方、定年まであと2年となりました。但し、小学生の息子がおりますので、その後も仕事せざるを得ないと思っておりますが、徐々にがつがつした仕事人生から足を洗って、余裕のある生活に切り替えていき

たいな！と思っております。その意味で、本格的な山は難しいですが、田舎（特に東北）に行つて、ハイキングなり、釣りなり、色々やってみたいと思ひ始めております。その節には接点も出てくるかと思ひますので、宜しくお願い致します。

昭59 稲毛尚之 日々六甲山系を眺めながらの通勤で、それなりに季節の移ろいを感じております。

昭60 石丸義男 長く幽霊会員化しておりますが、Mail Linkで送付戴いております内容も何時も拝読させて頂いております。昨夏よりNew Delhiに駐在しております。ヒマラヤにも近いので、何れ近くで眺望したいと思つて居ります（昨年 Darjeeling で Kangchenjunga を眺望致しました、流石高さが違うなあと感激した次第です。故郷の富山湾から仰ぐ立山連峰も素晴らしいですが、3000m対8500m高さが違いました。）。又、機会有りましたら、是非 Manali には行き度、White Sale (Manali からは眺望出来得ませんが…)に永眠されている先輩御三方を偲びたく。昨年確か33回忌だったのですが、着任早々で Manali には行けず（又、J & K州が大洪水の為、道が悪いとのことで、避けた経緯も有りますが…。）何卒宜しくお願い申し上げます。

平1 高橋弘行 ご無沙汰しております。いつも皆さまの山行報告などを楽しく拝読しております。

平6 田形祐樹 伊勢神宮、熊野古道においでの際には、伊勢の田形まで事前にご連絡ください。お会いしましょう。会ったことない方でも歓迎です。yukitingata@gmail.com までメールください。

平8 淵澤貴子 昨年4月、旭川に転勤しました。遠方ですので、今後も首都圏への転勤がない限り、基本的に総会等はすべて欠席とさせて頂きます。

平15 山田秀明 2014年夏よりタイのバンコクの駐在になりました。これから山スキーシーズンが始まるにも関わらず、スキーが出来ないのは哀しいですね。ぜひ、バンコクにお越しの際はお気軽にご連絡ください。

## 三月会通信

■ 2014年10月20日 ■

【出席者】 佐藤、竹中、小島、佐藤（久）、岡田、中村、宮武、前神、高崎（記録）

▽ケダモノ用のワナにかかった話から——。  
FN山行で廻り目平に行った時、麓に車を停めて林道を歩き始め、目指す四方原山に向かっている積りで登っていました。稜線の手前まで来て、どうも間違えて漁師道に入り込んだようだと思付いたものの、ひと先ず稜線までは行ってみようと、藤原さんを先頭に登っている時、2番目にいた中村（雅）さんが、落ち葉で綺麗に隠したワナに足を捕らえられて動けなくなつたそうです。「歯」のあるワナでなくて怪我をせず助かったものの、また靴を脱いで足は抜けたものの、靴は抜けません。宮武さんが携行していたスプーンを使って、時間をかけて、何とか靴を外して、事なきを得た、との事でした。付近に打ち込んだポールにワイヤーで仕掛けてあつたようです。登山靴は片方の足だけで、ポール、ワイヤー、もう

片方の靴を担いで麓まで降りる羽目にならなくて良かった、という話でした。

▽アンナプルナト・レッキング中の旅行者多数が吹雪・雪崩に遭遇して、多くのトレッキングカーが亡くなつたりケガをしたりというニュースがありました。2011年の10月末には、ほぼ同じルートを佐藤（久）さんがトレッキングしています。5400mのトロンパス付近で被害が大きかつたようですが、ここは普段から風が強クガラガラのガレ場の様な所だそうです。

▽今年も、佐藤（久）さん、岡田さん、中村（雅）さんの3人は、カラコルム周遊、天山南路バス旅行に行かれました。カラコルムでは、その昔、遠征計画をたてたマルビティンを間近に望み、K2、ブロードピーク等も遠望出来て写真に収めて来ました。出発点のイスラマバードからギルギットまでは天候が悪く、飛行機が飛ばなかった、次の便は三日後というので車をチャーターし、ワゴン車で約18時間、区間によっては治安が悪いのか、自動小銃を構えた警官が乗り込んで来たそうです。かのビン・ラディンが急襲されたアポッタ・バードも通過したという話でした。テロの不安が大きいのでしよう、欧米からの観光客が例年より少ないようです。中国に入つてからは、公安の

チェックが厳しく、撮影した写真を1枚1枚検閲されたり、買い物袋を全部広げさせられたり、日本人だという理由でポリオのワクチンを注射されたり、英語が通じない、筆談も通じない、店で水を飲むのにコップが無い、等などの苦勞があつたようです。

▽御嶽山の噴火で多くの犠牲者が出ましたが、佐藤さん・竹中さんは暫く前に、佐藤（久）さんは昨年、登つたそうです。噴煙が出ている事も気付かない程の静かだった山が、こんなに暴れるとは、自然を侮つてはいけない事がよく解りました。火山の噴火は、地震よりも予測が難しい、ほとんど不可能、という報道もありました。来夏の十勝岳（活火山！）登山には是非ヘルメットを持参して下さい。老人登山者は何処の山に登るにもヘルメットを冠る方が安全かも知れません。

▽マグマ噴火と水蒸気噴火の違い、マグマはどうやって出来る、火山は地球を人間の顔に例えるならば、ニキビのようなものだ、とか文系大学の卒業生としては専門外の話にも夫々蘊蓄が語られました。水は気体（水蒸気）になると体積は1700倍になる、マグマは海底のプレートが大陸プレートの下に沈み込む時に水を巻き込んで出来る、とか。

▽小島さんは、家族旅行で南米に行かれまし  
た。「針葉樹12号」の遠征記録を思い出し  
ながら、ティティカカ湖に浮かぶ島で泊ま  
り、ポリビア・アンデスも遠くに眺める事  
が出来た。次回はアコンカグアの麓を抜け  
るルートをバスで通ってみたい、とのこと  
です。

●山行報告 (FN…FN短大山行)

佐藤 10/17 丹沢・大山。単独行

竹中 9/19 両神山(新白井差コース)。

白井差から私道(通行料1,000円)を  
往復。JACの全国支部懇談会(埼玉支部  
主催)に参加。

9/28 FN相模湖駅→小仏城山→高尾  
山→高尾駅から駅まで、学生と一緒、京王  
高尾山口→JR高尾駅までが一苦勞。

小島 9/26→10/10 アマゾン・ジャン  
グル&ティティカカ湖。家族で、ポリビア・  
アンデスが見えました。

佐藤(久) 9/5→10/3 カラコルム・  
フンザ→天山南路。岡田さん、中村(雅)  
さんと一緒。

高崎 9/28 FN高尾山

10/18 南八ツ・硫黄岳。美濃戸まで車  
で、赤岳鉱泉から往復。

岡田 9/5→10/10 カラコルム・フン

ザ→天山南路。佐藤(久)さん、中村(雅)  
さんと一緒。

中村(雅) 9/5→10/3 カラコルム・  
フンザ・天山南路の旅。佐藤(久)さん、  
岡田さんと3人で。

10/18 藤原山荘(川端下)から小川山  
往復。廻り目平合宿、本間さんと。

10/19 四方原山(の積りが1,715  
m峰)。本間さん藤原さん、宮武さんと。獣  
用のワナにかかった。

宮武 10/18 茅ヶ岳→廻り目平

10/19 四方原山。間違えて無名の山を  
登山。本間さん、中村(雅)さん、藤原さ  
んと4人で。

前神 9/5→8 北岳とその周辺。学生二  
人

9/20→21 澗沢より奥穂高。会社の人  
達と

10/11→12 岩手山及び八甲田山。会社  
の人達と

■11月17日■

【出席者】 佐藤、上原、塩川、竹中、小島、

小野、佐藤(久)、中村(雅)、井草、高崎  
(記録)

▽先頃、長かった米国生活を終えて帰国され

た塩川さん(昭和33年卒)が参加され、昔  
話に花が咲きました。特に、元学長の阿部  
謹也さんとは小・中学校(石神井西)、石神  
井高校から大学とご一緒だったそうです。

阿部謹也さんの著された書物が手元にある  
が、全部、自筆の署名入りだそうです。塩  
川さんは入学当初はテニス部に入ったそう  
ですが、阿部さんに誘われて山岳部に入部  
され、阿部さんとはよく一緒に山に登られ  
ました。山登りに関して親の反対が強かつ  
た阿部さんは、登山道具一式を塩川さん  
のお宅に置いておられたとの事です。ゼミは  
一緒に「金融論」の長澤先生で、1年上に  
山本健一郎さんがいらつしやった。近々、  
阿部さんとの山登りの思い出話を書かれる  
予定だそうです。

▽山岳月刊誌「PEKS」の最新号(12月号、  
11/15発売)に一橋山岳部の記事が出て  
います。中村(雅)さんがコピーを持参さ  
れました。記事の内容には、4カ所くらい  
の誤りがあるようですが、綺麗な写真で部  
室の中が紹介されていたり、名前入りで部  
員の集合写真とか肉体系を誇る部員の写真  
があつたり、面白い記事になっています。

▽佐藤さんが「山に登る前に読む本」(能勢博  
著、講談社)を持参されました。「山に登っ

てしまった後」の我々には手遅れだったかも知れませんが、山に登る人の栄養・エネルギーの摂取に関する事、トレールニングの事など。未だ役に立つ内容が多々あります。よく下山の時に膝上の筋肉疲労で、後で苦勞しますが、これに備える平地でのトレールニングは無いようです。佐藤さん曰く、山に登る事が一番効果のあるトレールニングだと思います。

▽12月には懇親山行として佐藤(久)さんが「笹子雁ヶ腹摺山(1358m)」登山を計画しています。この近辺には「雁ヶ腹摺山」という名前の付いた山が三つあります。「笹子」の他に日川上流で大菩薩峠に連なる「牛奥ノ雁ヶ腹摺山(1994m)」、その南西にあり、その昔流通していた「五百円札」裏面の富士山遠景写真で有名になった「雁ヶ腹摺山(1874m)」の三つです。OBが10名、他に数名の学生が参加する予定だそうです。そう言えば、東京近郊では、雁行する渡り鳥の姿も見られなくなって久しくなります。

▽懇親山行で眺望が楽しみな富士山ですが、今年も富士山は雪が少ないようです。その昔、11月下旬には、雪上訓練で混み合った7合目近辺で大雪崩が発生し、大勢の大学山岳部員が下敷きになった遭難事故があり

ました。富士吉田の駅から歩き出し、浅間神社の参道を経由して、5合目森林限界の辺りに幕営して訓練をした頃は、5合目・6合目でも十分な積雪があったような記憶があります。これも地球温暖化によるものでしょうか。

▽来年の夏には、北海道シリーズで十勝岳と富良野岳に登る計画が出来上がりつつあるようです。御嶽山の水蒸気爆発、噴石・火山灰による大量遭難の記憶も新しく、このような天変地異への備えも重要になってきました。約30年前に噴火した十勝岳は、御嶽山に比べれば観測体制もしっかりしていてシェルターも作られ、より安全に登山出来るはず、だそうです。最近では、岩登り用に限らずヘルメットが登山用具の店に並ぶようになりました。特に中高年登山者は、バランスも悪くなって来ているので、これからは、ストックに加えて必需品になるのかも知れません。

▽「ヒマラヤ鉄の時代」と呼ばれた時代も遠い昔の話になって、今では、「単独登頂」とか「無酸素登頂」とかの言葉が聞かれるようになりました。そこで、これら「単独」とか「無酸素」登頂の定義は何か？と問題提起がありました。エベレストにポーター、シェルパのサポート無しで「単独」で登れ

るだろうか、サウスコルなどの高所キャンプで酸素無しで眠れるのだろうか、等々。何方か明確な定義をご存知でしょうか？

### ●山行報告

佐藤 11/14 小丸・鍋割・地酒・蕎麦  
上原 10/28 相模湖から城山經由小仏  
峠、バスで高尾  
11/15 芦安登山道整備  
11/16 芦安山岳館  
塩川 11/16 丹沢。同級生、全員7名、80歳  
竹中 10/25 奥多摩 棒ノ折山(小沢峠)。多摩支部、第3期登山教室実登に付き  
合い  
11/15 高川山(初狩ノ壬生駅)。同上、受講生20人+付添12人  
小野 10/20 渡島 駒ヶ岳。1996年噴火により7合目以上は登山禁止。御岳山のこともあり、登山禁止解除は当面ないと  
の判断で7合目まで。(北海道百名山の1つ)  
11/8 手稲山。初雪を踏んで頂上へ  
11/15〜16 上原さんと同じ  
佐藤(久) 11/15〜16 芦安登山道整備  
高崎 10/25 丹沢山(大倉尾根、塔ノ岳  
經由で往復) 予定通り(FN)パーティー

に出会った

11 / 15 ~ 16 芦安登山道整備

中村(雅) 10 / 25 大倉から塔ノ岳・丹

沢山往復。(FN)岡田、中村、藤原、(学

生)上、大矢、内海。上君は蛭ヶ岳往復、

高崎(俊)さんは先行し大倉から丹沢山往

復(単独)、岡田さんは三ノ塔尾根經由で大

倉に下山

11 / 11 高尾山(高尾山口)6号路、高

尾山、いろいろの森コース、高尾駅。高校同

窓会山行

11 / 15 ~ 16 芦安登山道整備

井草 11 / 14 大岳山。単独。拙宅から見

える山に登ってみようシリーズ。御岳山、

奥ノ院、梅沢探勝路

## ■ 12月15日 ■

【出席者】 竹中、小島、佐藤(久)、岡田、中

村(雅)、宮武、高崎(記録)

▽常連の佐藤さん、本間さん等の顔が見られ

ず、多少寂しい集まりになりましたが、遙々

岡山から金子さんが出席されました。岡山

で既に「矢掛本陣」を中心にした町興し事

業NPO法人で活躍中だそうです。1回目

の部室再塗装の立役者でもありますので、  
来年早々に計画されている2度目の外壁補  
修・塗装作業においても中心になって活躍  
して頂けそうです。交通手段に関しては、  
飛行機・新幹線の他に長距離バスが割安で  
便利だそうです。

▽その昔、瀬戸内沿岸の平地には湿地が多く、  
徒歩交通には適さず、「山陽道」は一山越え

た内陸側の「矢掛」を通っていたそうです。

「矢掛」宿は大和と大宰府を結ぶ「山陽道」

にある宿場町で180軒の家並の半数以上

が江戸時代からのもので、「本陣」は篤姫も

逗留された建物だそうです。

▽この所15人前後で定着して来た現役学生

部員をどう指導・支援していくか、は我々

OBにとって一つの課題でもあります。

夏・春・冬の合宿、雪上訓練、氷雪訓練な

ど、大学山岳部員としての基礎的な活動・

訓練を期待したいところです。この「三月

会」に集まるメンバーの大半は、所謂「高

齢者」に分類される年代で、少しの例外を

除いて、体力的に現役を实地で指導する体

力には自信がありません。若いメンバーの

活躍に期待したいところですが、昨今の職

場の事情は、それを許さないようで、解決

策はなかなか見つかりません。それでも30

代、40代の若いOBの協力が是非欲しい所

です。

▽FN短大の山行予定は従来、主宰の藤原さ

んからの案内メールを本間さんが会員にH

U H A Cメールされていましたが、①今後は

藤原さんから会員にもH U H A Cメール

する②学生への山行案内などの連絡用に

学生専用グループメールを新設するとの話

が中村(雅)さんからありました。また、

来年1月の4日・葉山アルプス 11日・三

ツ峠(アイゼン歩行訓練)の山行予定が発

表されました。

## ● 山行報告

竹中 11 / 22 ~ 23 石井さんを偲ぶ会。三

頭山、横寄山。佐藤、高崎、松尾(寛)、石

和田、遠藤、蛭川、本間、他

22日・都民の森、三頭山、横寄山、数馬

(蛇の湯) 23日・数馬、浅間尾根、川乗

バス停

12 / 7 懇親山行 笹子雁ヶ腹摺山。OB

10人、学生6人

12 / 10 N M K Bトレイニング 幕岩。

藤原さんと、往路はバス、帰路は徒歩

小島 12 / 7 懇親山行 笹子雁ヶ腹摺山。

佐藤(久)

12 / 7 懇親山行 笹子雁ヶ腹摺山

岡田 12 / 7 懇親山行 笹子雁ヶ腹摺山

中村(雅) 11/19 陣馬山(町内会山行、5名)

11/20 裏丹沢(黍殻山、焼山、石砂山)。藤原さんと2人個人山行

11/30 (FN) 大菩薩・牛ノ寝通りコース。藤原、中村(学生) 太田、辰川、内海、黄。甲斐大和駅⇨バス⇨上日川峠⇨大菩薩峠⇨石丸峠⇨牛の寝通り⇨大ダワ⇨小菅の湯⇨バス⇨上野原駅

12/12 高川山(高校同期4人)。田野倉駅⇨松葉コース⇨高川山⇨初狩駅

12/14 (FN) 乾徳山。藤原、中村(学生) 太田、西山、上、内海。山梨市駅⇨徳和⇨乾徳山往復

宮武 12/7 懇親山行 笹子雁ヶ腹摺山

## ■2015年1月19日■

【出席者】 佐藤、本間、佐藤(久)、中村(雅)、高崎(記録)

▽明後日に新年会を控えているので、参加される方が少ないのではないかと危惧されましたが、上記のように5名が出席されました。少数の参加にも関わらず、話題豊富で賑やかな会合になりました。

▽先ずは雪山の計画から。雪の八ヶ岳に再挑戦、赤岳鉱泉に一泊し、硫黄岳に登り、夏沢峠を経て根石岳を経て天狗岳に到、黒百合ヒュッテに一泊、唐沢鉱泉か渋温泉に降りようというもの。厳冬期は避け、雪が腐らない4月初旬までの好天の日に出かけようというものです。雪の硫黄岳はルートル会員が何回か挑戦していますが、天狗までの縦走は未だ実現していませんが、たまたまたエスケープルートも幾つかあるので、安全に降りて来られよう、という目算です。参加ご希望の方はお知らせ下さい。ただし、日程は、天候を優先するので、直前まで確定出来ない恐れがあります。現在、岡田さん、吉沢さん、中村(雅)さんの参加が確定しているようです。

▽未だ若手と言えるOBであった頃の正月休みに、佐藤さんは単独で、黒百合平から天狗岳、硫黄岳、赤岳の縦走を完成されているようです。3~4年前の3月末から4月にかけて、佐藤さんと高崎(俊)とで、赤岳鉱泉から赤岳を目指しましたが、爆弾低気圧による大雪のため、硫黄岳に転進したものの、ラッセルに苦勞し、また雪崩の危険もあつたので、赤岩の頭の直前で諦めたことがあります。もう一日粘って再挑戦も考えましたが、結局、アダージョに避難

したものでした。

▽このところ、いわゆる「バックカントリースキー」での遭難が続いています。苗場山周辺ではスノーボードで帰って来られなかった人達が地元の救援隊に助け出されましたが、白馬岳周辺では、早稲田大学山岳部のOBが依然行方不明になったままです。山岳部OBのパーティーが帰って来られないのは、途中で雪崩にでも遭遇したのでしょうか？

▽今年の夏の北海道山行は十勝岳・富良野岳方面で計画が進んでいます。3泊4日で予定されています。十勝岳は「活火山」ですから、ヘルメットは必携になります。

▽年金生活に入る頃になると、普段のトレーニングをどうするか、が課題になります。適度な頻度で山に登ることが最適な事は分かっているのですが、なかなか実現は難しいところではあります。腹筋運動(膝を立てて臍を見るように)、スクワット(出来れば踵を上げて)、階段登り、などを実践している会員が多い様です。山本正嘉著「登山の運動生理学百科」(東京新聞)がこの方面のバイブルと言われている様です。参考に、佐藤さんの実践トレーニングコースは、大倉から小丸尾根(ノンストップ)の他に、秦野駅から念仏山・高取山・蓑毛越・大山を経由

して日向薬師まで、があるようです。体力維持にはそれなりの努力が要求されますが、これには年齢は関係ありません。

▽大学入試センター試験の問題が新聞の紙面に登場する時期になりました。その昔「進適（進学適正検査）」という試験があった、一校・二校の区別があった、今の「前期試験」「後期試験」の違いは何だ？とか。

インターネットで伊勢の田形さんが紹介されているのですが「ディープな戦後史」という書物があります。この本の「はじめに」の中に「戦後史を出さない（出題しない）東大日本史に対して、戦後史に関するディープな問いを発し続けているのが、一橋大学の日本史の入試問題です。東大日本史とは違った意味で面白い一橋大日本史こそ、世に知られるべきだ。一橋日本史はラジカルすぎて一筋縄ではいきません」云々と紹介されています。今更になります。

▽高校の理科で「地学」を学んだ我々年代は、所謂「地向斜」理論から、「大陸移動説」を経て「プレートテクトニクス」に移行する端境期に学んだことになりました。今では「プレートテクトニクス」に基づく考え方で、例えば東日本大地震などの原因が説明されています。気象学者のウエゲナーが説いた頃はまともな受け取られなかったとか、第

2次世界大戦の潜水艦探査技術から大西洋海底地形が解明されてプレート説が実証されたとか、プレートの沈み込みには、高温高压の水の役割が大きい、岩石を形作る分子レベルの動きが大きく関係するとか、社会科学系大学の卒業生とは思えない話題で盛り上がりました。

### ●山行報告

佐藤 12/26 大山・三ノ塔・地酒・そば。

単独行

本間 なし

佐藤（久） なし

高崎 なし

中村（雅） 1/4 逗子近郊の山。逗子駅

↳仙元山↳森戸川↳相州二子山↳東逗子駅

↳鷹取山↳追浜駅。岡田夫妻、藤原、（学生）

西山、辰川、大矢、黄

1/9 徳並山・古部山。甲斐大和駅↳徳

並山↳古部山↳三角コンバ↳（林道歩き）

↳勝沼ぶどう郷（単独）。宮岩山、棚横手山

から甲州高尾山を歩く予定が、行程半ばで

道を間違えて下山。

1/11 三ツ峠山（FN）三ツ峠駅↳三ツ

峠山↳北口登山道↳宝鋳山バス停↳都留市

駅。藤原、中村、（学生）西山、太田、高橋、

上。岩登りトライ（頂上岩場）、アイゼン訓

練（下山路）

1/18 甲斐大和駅↳徳並山↳古部山↳  
宮岩山↳棚横手山↳甲州高尾山。藤原さん  
と二人、馬蹄形コース歩き成功（1/9の  
リベンジ）

## 編集後記

▽今回も予定より遅れましたが会員の皆様のご協力で楽しい山行報告を中心に新年会・臨時総会・会員消息を盛り込んで会報132号をお届けします。海外の山旅は小野さんのヨーロッパ、佐藤さんのカラコルムと楽しいトレッキング報告です。今後予定される会員のご参考になるかと思えます。佐藤さんの報告にあるマルビツテンは針葉樹会1966年の遠征企画で初登頂を狙った山で登山許可が下りれば私の人生も変わっていたと思いつながら読ませて頂きました。仲田、藤原さんの国内山行報告には、シニア山行の味が滲んでいて読ませる報告です。また斎藤さんの「会津の山」、前号の加藤さんの「上越後の山」と共に会員の皆さんの今年の山行計画に大変参考になりますね。ご執筆の皆さん有難うございました。伊勢には田形さんが待っています。島根、広島、旭川の会員もおられます。連絡を取り合って山を歩きましょう。

(小島)

食べるとツンとしたわさび独特の風味がありこの時季の酒の肴として最高です。小生が足繁く通っている鳩ノ巣の食堂では、常連が持つてくる春の味覚が楽しみです。フキノトウ味噌やノラボウ菜、これからはワラビ、タラの芽やコシアブラの天ぷら、ウドの酢味噌などが次々にテーブルに出て来ます(しかもタダ!)。そうした山菜は里山のどこで採れるかみんなだいたい知っていて、無くなっていると誰が採っていったんだんべえ、と噂になります。山菜を摘むときは採り過ぎないように気をつけてください。

(井草)

### ■会費納入のお願い

平成26年度(26年6月～27年5月)の会費納入をお願いいたします。従来通り会費免除となります。

会費(普通会費)は卒業年次に関係なく、一律5000円です。(ただし、昭和29年度以前卒業の会員は普通会費のほかに、期間を問わず賛助会費を募集しております。賛助会費は一口1000円で、口数は任意です。)

近年、学生部員の増加に伴い山岳部への支援強化の必要性が高まっておりますので、その資金手当てのためにも、賛助会費へのご協力をお願い申し上げます。

◎会費納入先◎  
三菱東京UFJ銀行 赤坂支店  
口座名 針葉樹会  
口座番号 普通4825647

\*振込の際、適用欄にお名前と卒年次をご記入してください。

会計幹事 佐藤久尚